

奈良県の 農産・園芸・水産



奈良県の農産・園芸・水産

目次

1 概要	自然的条件	1
	統計	2
	産地マップ	5
2 生産状況	水稻・麦・大豆	6
	野菜	7
	薬用作物	8
	果樹	9
	花き・植木	10
	茶、環境保全型農業	11
	水産業	12
3 研究の取組み		13



実証ほ場で収穫された大和まな

大和野菜の生産拡大と販路開拓を目指し、県が整備した実証ほ場において、大和野菜の生産拡大を目指す組織に生産を委託し、首都圏のマーケット等へ大和野菜を販売するモデル実証に取り組んでいます。

(表紙写真)
大和まなと千筋みずなの生産風景・調製作業(左下)

はじめに

本県は、都市近郊という立地の良さや恵まれた自然条件を生かした、農業や水産業が古くから営まれ、柿やキク、金魚など、全国に誇れる特産品を生産してきました。しかし、今や農産物価格の低迷や担い手の高齢化など、県農業・水産業を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。

そこで、県では、奈良らしい農業・水産業の発展と農村の活性化を図るため、県産農水産物の高付加価値化、高品質化によるブランド化や販路開拓等に向けて、生産から流通・加工、販売までの一気通貫した取り組みを積極的に展開しているところです。

この冊子は、皆様方に県農業・水産業の状況や県が行っている施策や研究の取り組み等を紹介し、県農業・水産業へのご理解を深めていただくために作成しました。

平成30年3月

1 概要

自然的条件

① 気象

(奈良)

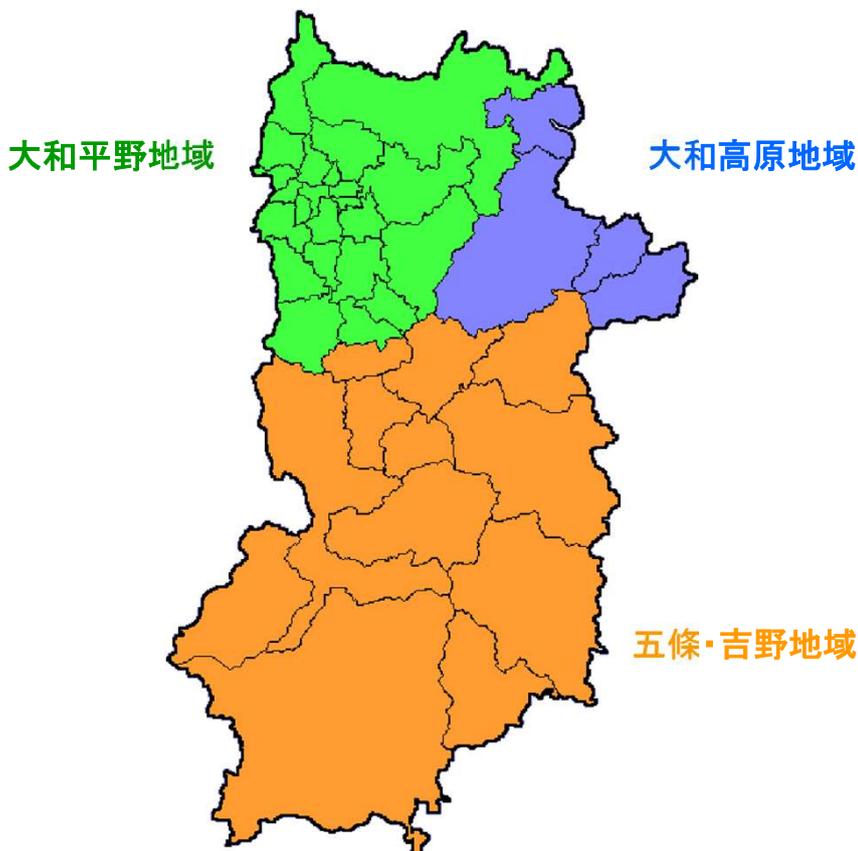
年平均気温	年降水量	年間日照時間	年平均日最高気温	年平均日最低気温
14.9℃	1,316mm	1,823h	20.4℃	10.3℃

※奈良地方気象台の地上気象観測年別平均値
(統計期間1981～2010年)

② 地勢

面積	南北	東西
3,691km ²	103.4km	78.6km

■ 地域区分



南北103.4km、東西78.6km、面積は3,691km²。国土の約1%を占めている。

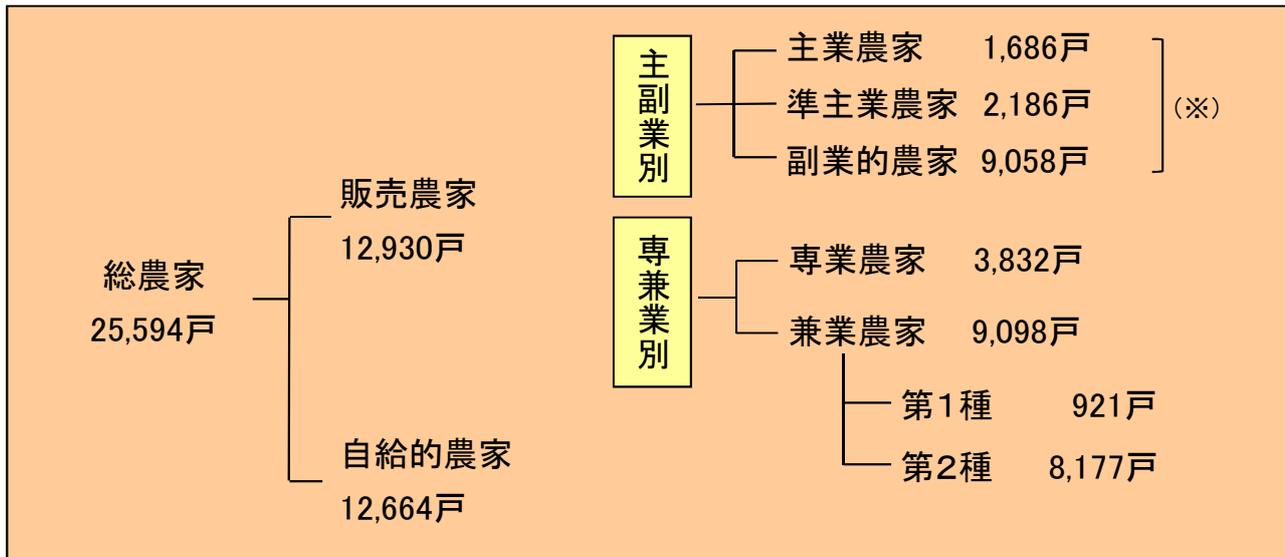
○「大和平野地域」は標高概ね100m以下の平地からなる奈良盆地を中心とする地域

○「大和高原地域」は県北東部に位置する標高200～500mの中山間地域

○「五條・吉野地域」は大部分が山間地域

統計

① 農家数



2015年農林業センサス(確定値)

(※) 主業農家

農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家をいう。

準主業農家

農外所得が主(農家所得の50%未満が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家をいう。

副業的農家

調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない農家(主業農家及び準主業農家以外の農家)をいう。

② 耕地

(ha)

耕地面積		
	田	畑
20,900	14,800	6,090

耕地及び作付面積統計(平成29年)

③ 食料自給率

(%)

カロリーベース	生産額ベース
15	22

農林水産省試算(平成27年度概算値)

④ 作物別産出額

(億円)

米	麦類	野菜	いも類	果実	花き	種苗 花木類 他(H27)	茶	その他	合計
96	1	120	5	89	40	4	17	63	436

「平成28年農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」(農林水産省)

麦類は県推計値

⑤ 主要品目別統計

● 水稲・麦・大豆（平成28年産）

	水稲	小麦	大豆	小豆
作付面積(ha)	8,680	108	158	29
収穫量(t)	45,600	250	190	—
産出額(億円)	96	1	0.4	

農林水産省 農林水産統計

小麦・大豆・小豆の産出額は県推計値

● 野菜（平成28年産）

	イチゴ	ホウレンソウ	ナス	ネギ	トマト	キュウリ
作付面積(ha)	110	299	97	129	75	75
収穫量(t)	2,510	3,740	5,790	2,780	4,020	2,150
産出額(億円)	22	18	13	11	9	5

	サトイモ	ハクサイ	ダイコン	スイカ
作付面積(ha)	95	101	101	85
収穫量(t)	1,500	3,790	3,980	2,210
産出額(億円)	3	3	2	2

農林水産省 農林水産統計

● 果樹（平成28年産）

	カキ	ウメ	ブドウ	ナシ
栽培面積(ha)	1,840	339	76	74
収穫量(t)	34,200	1,920	—	—
産出額(億円)	71	3	6	4

農林水産省 農林水産統計

● 花き・花木(平成28年産)

	切 花			花壇用苗もの類		鉢もの類		花木 (H27)	
	キク	バラ	切り枝	(産出額は H27年産)	パンジー	(産出額は H27年産)	シクラメン		
作付面積(ha)	258	113	6	124	39	12	10	3	22
出 荷 量 (千本・千鉢)	69,000	48,100	4,070	8,270	29,400	8,550	1,110	457	278
産出額(億円)	24	16	2	6	10	2	3	1	4

農林水産省 農林水産統計

花木の作付面積、出荷量は県調べ

● 茶(平成28年産)

茶 期 別	全 体	一番茶	二番茶	冬春秋番茶
荒茶生産量 (t)	1,720	994	344	379

茶 種 別	おおい茶	普通煎茶	番 茶
荒茶生産量 (t)	442	475	797

栽培面積(ha)	706
産出額(億円)	17

農林水産省 農林水産統計

● 水産(平成28年産)

河 川 漁 業	ア ユ	アマゴ
漁 獲 量 (t)	41	20
漁 獲 高 (億円)	1	0.2

農業水産振興課調べ

食用魚養殖業	アマゴ
生 産 量 (t)	17
生 産 額 (億円)	0.2

生産量: 農林水産省 農林水産統計

生産額: 農業水産振興課調べ

観賞魚養殖業	金 魚	錦 鯉
販売数量(万尾)	6,966	0.4
販売金額(億円)	8.2	0.01

農業水産振興課調べ

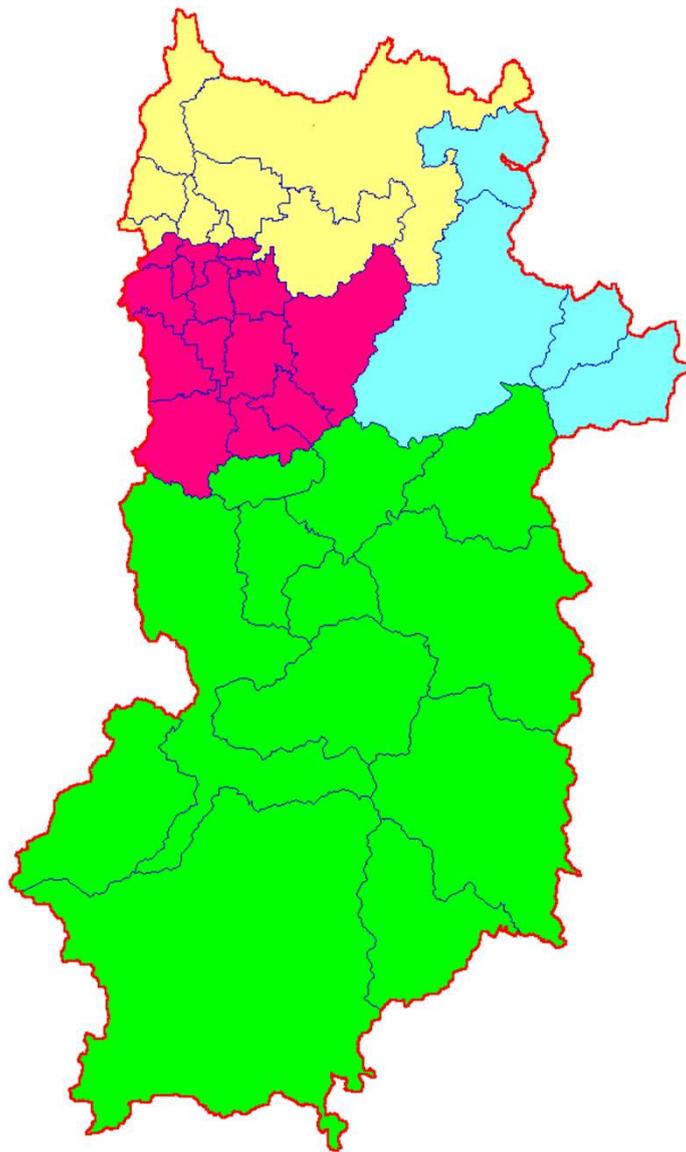
奈良県の農産・園芸・水産マップ

(米は県内全域にあるため省略)

北部 農林 振興 事務所	奈良市	イチゴ、ナス、ネギ、シュンギク、バラ、花壇用苗もの、鉢もの、花木類、茶
	天理市	イチゴ、トマト、ナス、ホウレンソウ、カキ、ブドウ、バラ、花壇用苗もの、茶、小麦、金魚
	大和郡山市	イチゴ、トマト、ナス、ネギ、シュンギク、イチジク、筒井れんこん、花壇用苗もの、花木類、金魚、錦鯉
	生駒市	トマト、黒大豆
	平群町	イチゴ、キク、バラ、ブドウ、枝もの
	三郷町	ブドウ
	斑鳩町	イチゴ、ナス、ホウレンソウ、ナシ
	安堵町	イチゴ、トマト

中部 農林 振興 事務所	橿原市	イチゴ、アスパラガス、花壇用苗もの、鉢もの、小麦
	桜井市	小麦、ソバ、イチゴ、ダイコン、ホウレンソウ、ミカン、バラ、鉢もの、花壇用苗もの、アユ、アマゴ、大豆
	川西町	トマト、ホウレンソウ、ネギ、結崎ネブカ
	三宅町	イチゴ
	田原本町	小麦、イチゴ、トマト、ナス、ホウレンソウ、味間いも、球根切り花、花壇用苗もの
	高取町	イチゴ、トマト、ナス、バラ、トウキ
	明日香村	イチゴ、軟弱野菜、キュウリ、ミカン、鉢もの、花壇用苗もの、キク、トウキ
	大和高田市	ネギ、軟弱野菜、鉢もの
	御所市	大和いも、サトイモ、鉢もの、花壇用苗もの、花木類、カキ
	香芝市	イチゴ
	葛城市	ナス、ネギ、キク、鉢もの、小麦、花壇用苗もの
	上牧町	イチゴ
	王寺町	
広陵町	小麦、イチゴ、ナス、軟弱野菜、花壇用苗もの	
河合町	ブドウ、イチゴ	

東部 農林 振興 事務所	山添村	ホウレンソウ、片平あかね、球根、茶、アユ、花壇用苗もの、キハダ
	宇陀市	ホウレンソウ、ミズナ、ハクサイ、レタス、エダマメ、ブロッコリー、宇陀金ごぼう、切り花、鉢もの、花壇用苗もの、球根、花木類、茶、黒大豆、小豆、アユ、アマゴ、ブルーベリー、トウキ
	曽爾村	トマト、ホウレンソウ、ミズナ、シュンギク、アユ、アマゴ
	御杖村	トマト、ホウレンソウ、ミズナ、アユ、アマゴ



南部 農林 振興 事務所	五條市	トマト、ナス、イチゴ、キュウリ、ミョウガ、香りごぼう、カキ、ウメ、花壇用苗もの、枝もの、アユ、アマゴ、トウキ
	吉野町	ナス、ワラビ、アユ、トウキ
	大淀町	ナス、ナシ、茶、アユ
	下市町	スイカ、ハクサイ、カキ、ウメ、キク、バラ、アユ、アマゴ、枝もの
	黒滝村	コンニャク、黒滝白きゅうり、枝もの、アユ、アマゴ
	天川村	ワサビ、アユ、アマゴ
	野迫川村	ワサビ、アマゴ
	十津川村	ワサビ、枝もの、アユ、アマゴ、ミシマサイコ
	下北山村	ミョウガ、下北春まな、アユ、アマゴ
	上北山村	アユ、アマゴ
	川上村	アユ、アマゴ
	東吉野村	茶、アユ、アマゴ

2 生産状況

水稲・麦・大豆

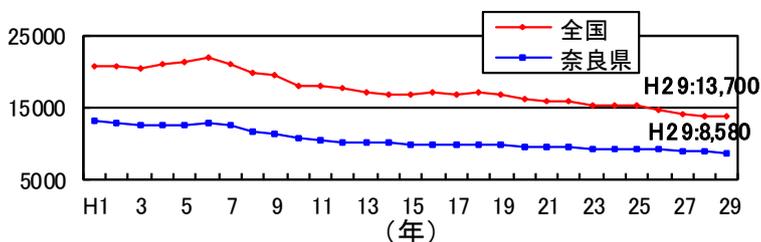
水稲

本県での水稲の位置づけは、農業産出額(平成28年)で見ると農業全体の約22%です。平成29年の水稲作付面積は8,580haで、耕地面積の40%を占めています。

平成27年のセンサスによると水稲を作付した経営体数は、11,691戸で、全経営体の89%になります。

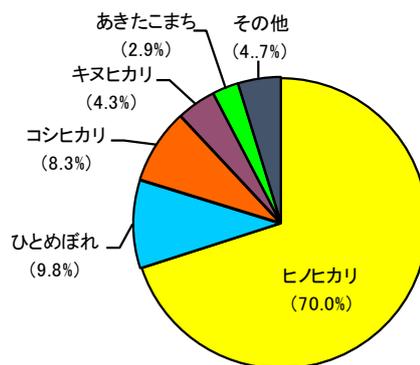
平成29年の品種別面積比率は図のとおりです。「ヒノヒカリ」は、「米の食味ランキング」において平成22年産より6年連続で特A評価を得ています。

水稲作付面積の推移 (全国:百ha、奈良県:ha)



ほ場整備された水田での水稲の収穫

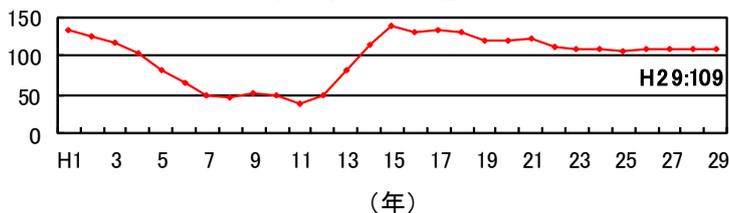
水稲品種別面積比率 (平成29年奈良県推計)



麦類

麦類はほとんどが小麦であり、桜井市、田原本町を主産地として集団で作付けされています。

小麦作付面積の推移 (ha)

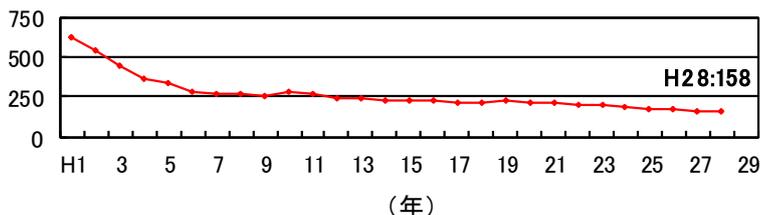


小麦の集団栽培

大豆類

大豆はほとんどが地場消費用の小規模な作付けですが、一部で集団栽培も行われています。また、県内各地で味噌加工や直売等の取り組みがされています。

大豆作付面積の推移 (ha)



大豆の集団栽培

ソバ

ソバは、桜井市笠地区などで栽培されています。



ソバの花

野菜

イチゴ

イチゴは現在、促成作型を中心に約110ha栽培されています。(天理市、大和郡山市、奈良市他)

品種は食味が良く栽培しやすい県育成品種“アスカルビー”をはじめ、“古都華”などが栽培されています。また、作業姿勢を改善した高設栽培の導入が進んでいます。



イチゴの高設栽培

軟弱野菜

ホウレンソウ(天理市、宇陀市、曽爾村、御杖村)、青ネギ(葛城市、大和高田市)、ミズナ(宇陀市、曽爾村)、シロナ(大和高田市)、コマツナ(田原本町、宇陀市)、アスパラガス(橿原市)が栽培されています。

ホウレンソウ、ミズナ、アスパラガスはハウスによる栽培、青ネギ、シロナ、コマツナは露地栽培が中心となっています。



ホウレンソウ

ナス

夏秋期の露地栽培と冬春期のハウス栽培が行われています。露地栽培での単位面積当たり収量は全国でもトップクラスです。(五條市、広陵町、天理市)



ナス

トマト

平坦地域でのハウスを利用した促成・半促成栽培と中山間地域での雨よけ夏秋栽培に大別されます。糖度の高い完熟系などの品種が導入されています。(天理市、五條市、大和郡山市、宇陀市、曽爾村)



トマト

キュウリ

平坦地域から中山間地域にかけて栽培されており、夏秋期は露地、秋冬期はハウスで栽培されています。(五條市、桜井市)

スイカ

昭和初期の大和スイカ全盛期には1,000haを越える作付けがありました。現在は約85haまで減少しています。(天理市、下市町、五條市) 全国有数の種子供給県として知られています。

いも類他

サトイモ(御所市、天理市、桜井市)、大和いも(御所市)、ゴボウ(宇陀市)、ミョウガ、山菜類(吉野郡)が栽培されています。

大和野菜

平成17年10月、本県の特産品として特徴をアピールできる「大和の伝統野菜」と「大和のこだわり野菜」を新しい奈良のブランドとして位置づけ、これまで25品目を認定しています。

「大和の伝統野菜」とは、戦前から本県での生産が確認されている品目で、地域の歴史・文化を受け継いだ独特の栽培方法等により、「味、香り、形態、来歴」などに特徴を持つもの、「大和のこだわり野菜」とは、栽培や収穫出荷に手間をかけた栄養やおいしさを増した野菜や本県オリジナル野菜などです。

「大和の伝統野菜」(20品目)

祝だいこん、宇陀金ごぼう、黄金まくわ、片平あかね、小しょうが、下北春まな、千筋みずな、軟白ずいき、花みょうが、ひもとうがらし、大和いも、大和きくな、大和三尺きゅうり、大和まな、大和丸なす、結崎ネブカ、紫とうがらし、筒井れんこん、味間いも、黒滝白きゅうり

「大和のこだわり野菜」(5品目)

大和ふとねぎ、大和寒熟ほうれん草、半白きゅうり、香りごぼう、朝採り野菜(レタス、なす、きゅうり)

県内をはじめ近府県への出荷が大半ですが、近年は首都圏などへの出荷が増えてきています。



大和の伝統野菜



大和のこだわり野菜



大和まな

薬用作物

薬用作物には、吉野地域を中心とするヤマトウキ、シャクヤクや大和高原北部(山添村)を中心とするキハダ(オウバク)などがあります。

県では、「漢方のメッカ推進プロジェクト」により薬用作物の生産から販売までの一体的な振興を図っており、宇陀市や高取町など県内各地でヤマトウキの新規作付が進んでいます。



ヤマトウキ(大和当帰)

果 樹

カキ

カキは全国2位の生産量があり、五條・吉野地域や天理市、御所市で多く栽培されています。主な品種は“刀根早生(とねわせ)”、“平核無(ひらたねなし)”、“松本早生富有(まつもとわせふゆう)”、“富有(ふゆう)”です。品種や栽培法、貯蔵法を組み合わせることによって7月上旬から翌年1月まで出荷されています。

輸出にも取り組んでおり、香港などに約75 t(平成28年)を輸出しています。

ハウス栽培は、昭和55年に始まり、現在、五條市、下市町で栽培されています。

「ハウス柿」の生産量は全国1位で、品種は“刀根早生”で、栽培面積は約13haです。7月上旬から全国に先駆けて収穫が始まり、9月中旬まで出荷されています。



刀根早生のハウス栽培

ウメ

五條・吉野地域で多く栽培されています。主な品種は“鶯宿(おうしゆく)”、“白加賀(しらかが)”、“南高(なんこう)”で、5月下旬から7月上旬まで出荷されています。

市場出荷の他、加工業者向けにも出荷され、梅酒、梅ジュース、梅干し、梅エキス用などに加工されています。



ウメ

ナシ

大淀町、斑鳩町で栽培されています。

主な品種は大淀町では“二十世紀”、斑鳩町では“幸水”、“豊水”で、8月中旬から9月下旬まで直売を主体に販売されています。



ナシ(二十世紀)

ブドウ

主に平群町、河合町で栽培されています。

主な品種は“デラウェア”、“巨峰”で、ハウス栽培の作型を組み合わせ、5月下旬から8月下旬まで近郊市場へのお荷と地元での直売が行われています。



ブドウ(デラウェア)

イチジク

平坦部の水田果樹として主に大和郡山市で栽培されています。主な品種は“榊井ドーフィン”で、栽培面積は約28haです。5月上旬から10月下旬まで近郊市場を中心に出荷されています。



イチジク(榊井ドーフィン)

花き・植木

キク（切り花）

キクは主に露地栽培で5～11月に出荷されています。質・量ともに全国有数の地位を築いており、特に小ギクは全国2位、二輪ギクは全国1位の生産量を誇っています。

また、県育成小ギクとして“春日の紅”、“春日の鈴音”を、県育成二輪ギクとして“千都の舞”、“千都の風”、“千都の恋”、“千都の粋”を品種登録しています。さらに、小ギク2品種を品種登録出願しています。（小ギク：平群町、輪ギク：葛城市、下市町他）



ネットハウス内での小ギクの栽培

二輪ギク

ダリア（球根・切り花）

球根養成（宇陀市、山添村）及び切り花生産（宇陀市、葛城市）が行われています。切り花は6～10月出荷の露地栽培が主で、ハウス栽培で11～5月出荷の冬春切りの作型もあります。



切り花ダリアの収穫

鉢もの

シクラメンやポインセチアなどが生産されています。（桜井市、橿原市、御所市、宇陀市、葛城市他）



シクラメン圃場

バラ（切り花）

施設での周年切り中心の作型が主流で、従来からの土耕栽培の他にロックウール栽培、少量培地耕が普及しています。（平群町、奈良市、天理市、桜井市他）



平群温室バラ組合・バラ団地

花壇用苗もの

パンジー・ビオラを中心に生産されており、特にパンジーは全国3位の生産量を誇ります。（県内全域）



花壇用苗もの

枝もの（切り花）

ハナモモ、サクラ、サンシュユ等の花木の促成出荷や、クマザサ、チョウセンマキ等の栽培が行われています。（五條市、平群町、下市町他）



クマザサ

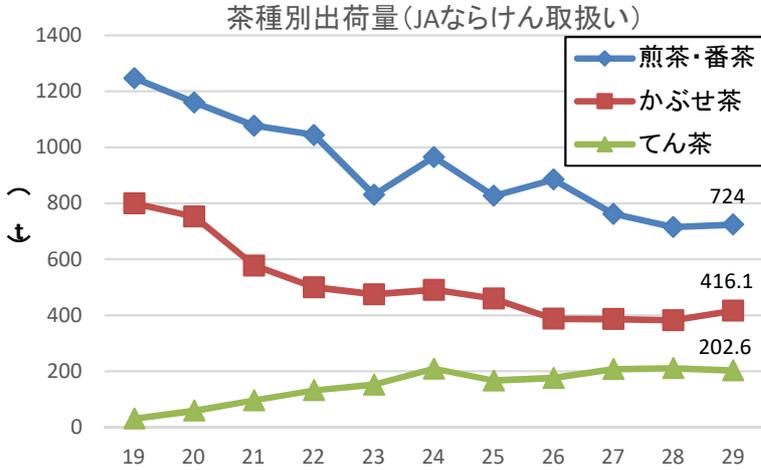
花木類（植木）

台杉や緑化用中低木を中心とした生産が行われています。（大和郡山市、御所市、宇陀市他）

茶

「大和茶」は、奈良市、山添村、宇陀市、天理市、大淀町、東吉野村の冷涼な気候の下で栽培され、良質な煎茶やかぶせ茶が生産されています。

最近では食品加工用てん茶の需要増加に伴い、てん茶の生産量が増えてきています。



優良茶園の風景

大和高原に広がる造成茶園。防霜扇が整備された緩傾斜地に緑の縞模様が広がり独特の景観を形成しています。

環境保全型農業

土づくりを基本とした環境保全型農業の推進に取り組んでおり、現在、奈良県での有機農業の取組面積は110ha(平成28年)、エコファーマー認定数は平成28年度末で440人となっています。

有機農産物を始め、エコファーマーの農産物の生産・消費拡大を図るため、奈良県の環境にやさしい農業シンボルマークの認定を行っています。



奈良県の環境にやさしい農業シンボルマーク



乗用型茶摘採機

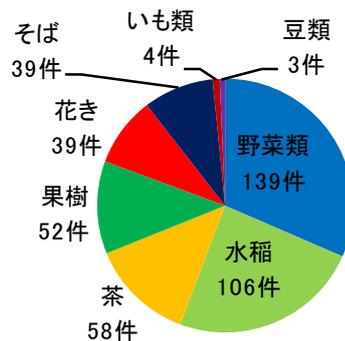
一人で収穫作業ができるため、効率化・省力化が図られ、県内の茶産地で導入が進んでいます。



機械化された大型自動製茶工場

コンピューターで統合制御された製茶工場でお茶が自動的に加工されます。

各エコファーマーの主要作付品目件数 (H29.3)



エコファーマーと消費者交流会

水産業

奈良県では、吉野川(紀の川)、新宮川、淀川、大和川の4水系の河川で、アユやアマゴなどを対象に釣りによる漁業が行われています。また、山間部で豊かなきれいな水を利用してアマゴ等食用魚の養殖が、大和平野でかんがい用水を利用して金魚を主体とする観賞魚の養殖が行われています。

『県のさかな』

県民の皆様には魚への親しみを持っていただき、これらを育む水環境への関心を高めていただくため、「きんぎょ」「あゆ」「あまご」の3魚種を県のさかなに制定しています。

河川漁業

22漁業協同組合が河川漁業を行っており、吉野川・熊野川の本支流や大和川・淀川(名張川)の上流域ではアユやアマゴを、大和川下流域や他の3水系のダム湖等ではコイやフナを中心に漁業が行われています。また、アユ漁業の振興のため、生まれも育ちも奈良県であるダム湖産天然アユの有効活用に取り組んでいます。さらに、カワウの食害による漁業被害が多いことから、カワウの一定数の駆除に取り組むことで、内水面漁業・養殖業の経営の安定化を図っています。



アユ漁の解禁風景

養殖業

アマゴ

主な生産地は、吉野郡や宇陀郡で、養殖されたアマゴは河川漁業の放流用のほか、地元へ食用として出荷されたり、甘露煮などの加工品としても利用されています。

金魚

大和郡山市を中心に、水田を改良した養魚池等で養殖されています。奈良県は金魚の国内有数の産地で、生産された金魚は市場、問屋等を通じ全国に出荷されています。

その他

大和平野のため池を利用して、フナが古くから養殖されています。また、生産量はわずかですが、アユ、イワナ、ニジマスが吉野郡で地元向けに養殖されています。



アマゴ養殖場



金魚の養殖場



観賞魚市場のせり風景

3 研究の取組み

農業研究開発センターの研究成果と現在取り組んでいる内容を紹介します。

1. 野菜

●商品性の高い新たなイチゴ品種の育成



【ケーキ店・市場出荷用品種】食味・形が良好で、適度な硬さ、果数がやや多く、収量が多い
 【高級果実店・直売用品種】食味・形が良好で適度な酸味

●低コスト化・強靱化を実現する園芸用ハウスの開発



建設足場資材を利用したイチゴ高設栽培施設の現地実証

●高品質化のための技術開発



イチゴ促成栽培におけるミツバチの代替・補完ポリネーター（花粉媒介昆虫）としてのヒロズキンバエの利用技術の確立

●ロボット技術等の活用による農作業補助機械の開発



手を使わずに走行・方向制御が可能で、ハウス内で容易に展開できる作業台車の開発

2. 花き

●気象変動に対して安定した開花特性をもつ小ギク品種の育成

【年次変動の小さい7-8月咲き品種】 【低温期の茎伸長性の良い5-6月咲き品種】



「春日の紅」

「春日の鈴音」

「春日Y1」
(流通名：春日の光)

「春日W1」
(同：春日の泉)

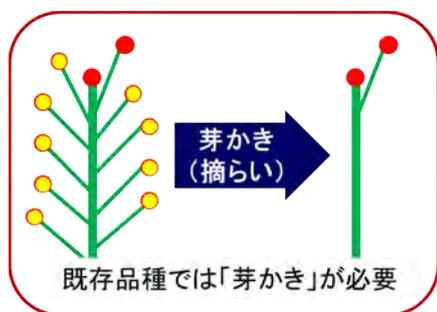
●キクわい化ウイルス抵抗性の小ギク品種選抜と中間母本作出



中間母本品種を育成し、抵抗性品種の育成を効率化

●無側枝性とキクわい化ウイルス抵抗性をもつ二輪ギクの育成

【これまでに育成した10月咲き無側枝性二輪ギク】



「千都の粹」

「千都の恋」

「千都の舞」

「千都の風」

3. 果樹

●カキ産地リフレッシュ技術の確立 ●柿葉安定生産技術の確立



「大苗育苗技術」(左)と「幼苗接ぎ木技術」の開発(右は植え付け年に着果した苗)



(左上)
柿葉生産専用ほ場

(右下)
柿の葉寿司用の
大きな葉(左)と
一般的な葉(右)



●イチジク安定生産技術の開発



高温と降雨による品質低下を防ぐ技術の開発

●カキ新品種育成と県内で収集した優良系統の調査 ●カキの重要病害虫の発生生態と防除対策の検討



甘柿のない時期に収穫できる
県オリジナル甘柿品種の育成



御所柿の有望な系統や枝変わり
個体の品質調査



チャノキロアザミウマ(左)と被害果(中央)及び発生源等調査のための粘着トラップ(右)



4. 水稲、麦、大豆

●地域特性に応じた穀類の育種・品種選定と栽培技術の確立



奈良オンリーワン酒米品種の育成



穀類の奨励品種の選定



飼料用等多収性品種の選定
と栽培技術の確立

6. 環境保全

●耕作放棄地に適した作物検索と 土壌水分管理技術の検討



暗きよや木炭混和で土壌水分を管理

●農薬残留モニタリング調査



農地から河川中に流出している農薬
成分の調査と、流出要因の解明

5. 茶

●食品添加用粉末茶とそれを用いた 機能性食品の開発



センター開発の手法で加工した粉末茶

●早期成園化技術の開発



大和高原の気象条件で生産できるセル成形苗(左)
の開発と、現地生産ほ場での実証(右)

7. 新商品素材の開発・発掘

●加工商品の開発と加工技術の研究



奈良式柿タンニン(上)と
柿タンニンサプリメント(右)



柿タンニン高速抽出技術(特許)を軸にした健康機能性と利用方法の研究



柿糖蜜漬けの開発



イチジクグラッセの開発

8. 薬用作物

● 優良品種の育成 (ヤマトトウキ)



根の商品価値を消失させないため、開花しにくい品種を育成

● 宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発



国産の需要が期待できる品目 (オンジ・トウスケボウフウ・カノコソウ等) の栽培技術開発



開発した省力、安定生産技術を盛り込んだ新しいマニュアルを作成

● 省力・安定生産技術の開発



マルチ利用の検討

機械収穫・機械除草の検討

短期育苗技術の開発

● 生薬以外の利用に向けた生産技術の開発



ヤマトトウキ葉の食品としての利用促進

9. 病害虫防除

● 生物機能を利用した病害虫防除技術の開発



ミナミキイロアザミウマを食べる天敵・ヒメハナカメムシの利用

天敵温存植物・マリーゴールドの作付け技術の開発 (露地ナスほ場)



緑豆によるダイズシストセンチュウの密度を下げる技術の開発

● 遺伝子解析技術を活用した病害虫診断に基づく防除対策の開発



遺伝子解析によるダリア輪紋病の迅速な診断技術の開発

10. 植物機能

● 県特産品の成分分析と調理・加工法の開発



大和野菜「結崎ネブカ」の出荷調整残渣から抽出した血圧関連酵素阻害成分を発見

● 農産物の機能性成分の分析



農畜産物ブランド認証制度に関連して、機能性成分や栄養成分による差別化の可能性について検討



● 柿葉を利用した後発酵茶の開発



柿葉の有効利用のため、機能性向上を目指した後発酵茶の開発

11. 遺伝資源の保存、中山間地農業、作業負担軽減機械、イチゴ無病苗

● 遺伝資源の保存と活用



ジーンバンクの運営

● 奈良にふさわしいパイプハウス雪害対策技術の開発



ハウスの補強資材や安全な雪下ろし方法の開発

● 女性に優しい農業機械の開発



作業負担を軽減する機械の開発

● イチゴの優良種苗供給



イチゴ無病苗増殖と萎黄病の検定



編集：奈良県農林部農業水産振興課
平成29年度発行